

## パナマの友と感動的な再会

聖教新聞の中南米特派員としてパナマに10年間駐在し帰国してから33年。このほど、赴任中にお世話になったメンバーへの感謝、病床にある友の激励、亡くなった方への追善の旅を妻としました。

1月17日出発から22日の帰国まで、パナマ滞在は4日間ほどでしたが、パナマ日本人学校訪問、パナマ運河、パナマ大学キャンパス、パナマ市内の見学、そして追善の勤行会、Reunión---Reencuentro con amigos SGIP（パナマSGIの友人たちとの再会の集い）、特にお世話になったメンバーを招待しての食事会と多様な行事で交歓を深めてきました。

### ◇ パナマ日本人学校

メールで校長先生からの依頼もあり訪問しました。学校では子供たちが校歌（作詞：清水）を歌って歓迎してくれました。自分の子供たちが通っていた1980年代には100人以上の生徒がいましたが現在は10数人。日パの経済交流の太さと時代の流れを反映しているようでした。



### ◇ パナマ運河、



パナマ運河は拡張工事が行われ2年前に開通。通行量は2倍になり、太平洋側のミラフローレスには運河博物館もついた近代的な見学所がありました。運河はアメリカ大陸およびパナマ地峡の最も狭い位置にあり、約80kmの航路が太平洋と大西洋をつないでいます。船がそのま

ま航行できるスエズ運河と違い、運河の両サイドには水のエレベーターの役を持つ閘門（こうもん）（写真上）が設けられ、船を海面から海拔27mにあるガツン湖まで上げ、ガツン湖を航行し反対側に着くとまた海面まで下ろす仕組みになっている。



ま 人知が生み出したまさに地球レベルの設備なのです。

### ◇ パナマ大学キャンパス内の池田大作公園、香峯子庭園、母の像

大学のキャンパス内には10年前に設置され、よく手入



れされた池田大作公園（写真左と中）と香峯子庭園、それに2年前に設置された「母の像」（写真右）の台座には池田先生作詞の「母」が刻まれていました。国立大学の中に先生を称え顕彰する事物が3点もあることに、池田先生とパナマSGIメンバーの活動への大学側の高い評価が感じられたものでした。

◇ **Reunión. Reencuentro con amigos SGIP**

今回はあくまでも個人的な訪問だったのですが、パナマSGI文化会館の大広間には多宝会（高齢者）メンバー、30年前に未来部で今、壮年部、婦人部の最前線で活躍しているメンバーなど200人余りが大変な歓迎をしてくれました。舞台では未来部員のダンス、コーラス、民族舞踊、音楽隊の演奏、パナマ人の作曲で日本でもよく知られた「ある愛の物語」の独唱、歓迎の言葉や記念品の贈呈、さらに私共の挨拶と多彩な盛り上がり。終了後には熱いハグと記念撮影がいつまでも続いたのです。



◇ **食事会**

パナマ在任中に特にお世話になったメンバー30人余りを中華料理店に招待して



感謝の食事会。30年前の当時の思い出やエピソードを語り合いながら和やかな時間が過ぎました。

➤ 今回の訪問へのメンバーのコメント

「これまで会館では見られなかったメンバーの顔が何人も見られた。多宝会のみならず各部の活性化に大いにつながると思うとありがたい」

(マイレス理事長)

「30 数年たって、高齢を押してパナマの自分たちのためにわざわざ来てくれたことに感動している。いつまでもパナマを愛してくれていて嬉しい」

(壮年部員)

「昔、未来部で Sra. Shimizu に世話になりましたが、今、自分の子供が未来部で頑張っている。後継のメンバーを育てることの大切さを実感しています」

(婦人部員)

「清水夫妻の訪問は私たちにも大事な生き方を教えてくれた。組織に温かな血の通ったカンフル注射をしてくれた」

(婦人部員)

- パナマは今、経済的に発展を遂げつつあり、高層ビルが建ち並ぶ街はニューヨークのマンハッタンのよう。地下鉄も建設された。車が激増し道路はいつも大渋滞。人口はこの半世紀で倍増し現在は 400 万近くに。ベネズエラやコロンビアなどからの流入もあり、多くの課題も抱えているように映りました。



- 翌週からは、パナマでカトリック系の”World Youth Day” (世界青年の日大会) が開催され、世界から数十万の若者が集まり、ローマ法王も訪れる予定になっていた、そんな中での訪問となったのです。
- 体調を崩しホテルではよく眠られず厳しい 4 日間でしたが、久しぶりの懐かしい友との再会が自分に勇気と元気を与えてくれました。

「此の世をば パナマ広布に 夫婦して 生きぬく姿 諸天もつつまむ」—— 特派員として在任中に池田先生よりいただいた激励の句。帰国後もパナマメン



バーへの応援をし、今回訪問時の財務でもできる限りの貢献をしてきましたが、「お世話になった皆さんに感謝の旅を」と定年直後から描いていた“見果てぬ夢”をとうとう叶えることができたのでした。